

【東通村】
校務 DX 計画

1 FAX・押印の見直し、ペーパーレス化

- FAX のやり取りにおいては、例外的に必要と考えられる業務以外は使用していない。教育委員会と学校との事務連絡等は、基本、電子メールを利用して行っている。押印においては、現在の制度上、押印は必要な状況である。
- ペーパーレス化については、休暇申請、出張申請など各種事務手続きは紙でのやり取りで行っている。

このことから、まずはペーパーレス化等の大きな阻害要因となっている押印について、制度・慣行の見直しを関係課と検討を行っていくことが必要である。また、FAX のやり取りは、教職員一人ひとりに代表メールアドレスを付与しているため、例外的に必要と考えられる業務以外は使用していない。

今後は、現状を的確に把握、必要な紙は残しつつペーパーレス化を図るなどし校務 DX の推進に取り組んでいく。

2 校務のデジタル化

東通村においては、オンプレミス型の校務支援システムを導入し、教職員の業務負担軽減を図ってきた。現行の校務支援システムの導入から 8 年経過し、令和 7 年 10 月でサポートが終了することから、更改について令和 7 年度に導入、令和 8 年 4 月の本格運用開始を目指し、関係課、機関と協議している段階である。

なお、現行の校務支援システムにおいては「使いづらい」とのフィードバックがあること、更改の課題においては、クラウド環境への対応ができていないことが顕在化した。

このことから、問題点の把握や国の次世代の校務デジタル化実証事業の成果を参考にし、教職員の負担軽減や手入力作業の一掃が可能なシステムの導入を図っていく。